昭和34年3月28日（土）　南西日報社　（毎週発行火木土）　（昭和28年7月27日第3種便郵物認可）　第341号

朝潮めでたく横綱昇進！

南西日報

発行所
南西日報社
鹿児島県大島郡徳之島町
電話亀津29番
振替　鹿児島　11556番
編集印刷発行人　小林正秀
新聞代郵料共月　100円

毎度の御引立厚く御礼申上げます
優良縣材在庫豊富
各地取引店あり、多少に拘らず御用命を御願い致します
鹿児島市湘崎町二一番地
末弘木材株式会社
電話②二九〇五・五五三〇

番付会議で決定
横綱審議会も異議なし

大関朝汐は二十五日相撲の最高位第四十六代目横綱に昇進した。相撲協会は二十五日大阪府立体育会館で春場所成績による番付会議を開き若析ら三役じんを総ナメにした朝汐の横綱昇進を決定、その旨記者団に表発すると共に横綱審議会に推薦することになつた。一方相撲協会横綱審議員委会はすでに二十三日正午から両国で開き、朝汐の横綱昇進問題について検討したが「まだ不安な点もあるが、相撲協会の番付会議で横綱昇進が決定推薦するなら必反対はしない」との意見が一致しているので協会の番付の通り正式決定した

朝潮など沖縄へ
往復とも飛行機で

四月六日朝汐関など協会相撲力士約八十名が沖縄へゆくことは既報の通りであるが、朝汐が沖縄へ行く時かまたは帰る時に亀津で歓迎会を開いてもらいたいと島内各方面からの強い要望により、町役場、議会、商工会などを初め本社などから二十三日関西奄美会長前田村清氏や在阪中の高砂親方や朝汐関、関西汽船の配総方などに対し、電報で依頼中であつたが、二十四日前田会長より本社に対し

朝汐関往復飛行機利用貨地寄る予定たたぬ。一行は四月六日那智丸にて沖縄へ直行するとの電報が届いた

井口黒汐船長ご会見

町役場米川総務課長と鶴野町商工会長、小林南西日報社長の三氏は二十四日亀徳経由沖縄行きの関西汽船黒汐丸の井口庄一郎船長を訪問「朝汐関とは目下電報で亀徳一時上陸してもらい歓迎会を開くため交渉中であるが、朝汐関が島の要望を入れて一時上陸するとなれば関西汽船の沖縄定期船が亀徳寄港しない日であつても便宜を計つてなるべく昼間着工するよう本社へ伝達方を」要望した。これに対し井口船長は那智丸が六日ドックを出て那覇に行き、十五日は黒汐が那覇から神戸に向うから貴意に添うよう努力すると答えたが、朝汐の日程上来られないことは別項電報の通りである、

先陣木村行司
沖縄へ黒汐丸で語る

二十四日下り黒汐丸の井口船長は米川総務課長、鶴野町商工会長、小林本社々長らに東京相撲協会二所の関部屋所属行司木村真之助氏を紹介、サロンにおいて朝汐関の沖縄往復の途上短時間でよいから上陸するよう協会と本人へ伝達方を要望したこれに対し木村氏は次のように語つた。

沖縄では九日から十四日まで五日間協会相撲を興行する。横づな、大関協会の幹部や力士一行は七十二名である。横づなと大関などの四人は往復ともに飛行機を利用することになつている。御郷里の皆さんの御要望はお伝えするが、日程の都合でどうなるか、私からは何ともいえない。私たちはこの船で沖縄へゆきいろいろと準備や打合せをすることになつている。那智丸で四月六日沖縄へ向い、十五日黒汐丸で乗船帰る予定である。

協会は二十五日番付会議を終り、直ちに地方巡業に出る。沖縄から帰つてからの日程はわからないが。東京場所は五月三日にはじまる。

横綱免許と由来

朝汐は十三勝二敗で優勝はしなかつたが、既報の如く三役じんを総ナメにして無敵ぶりを発揮したので例項の如く相撲協会は二十五日大阪府立体育会館で番付協議会を開き横綱昇進を決定した。

そこで横綱とその由来を紹介してみる。安永二年というと、今からざつと百八十七年前であるが相撲行司の式守五大夫の記録として伝えられるものによると、その頃まで城や屋敷を建てる際、いまの大関に当る力士の最高位に当るホテ（最手と書く）一人を招き、地鎮祭の地堅めをさせる例が多かつた。

その地堅め（地鎮祭）の作法としては、力士は心身を清める意味でシメナワをつけ、古代支那の勝法にのつとり、綱かこいをして善士、凶士に分けた地面の上で地踏みをした。この儀式に出る資格をもつことが、横綱の「伝」の許しであつた。

その後十七年の寛政元年に江戸勧進相撲の制度が確立し、有名な谷風や小野川関などが横綱を免許されるまでは、全く以上のような内容と意味をもつで、現在の横綱という意味とは食い違つていた。地固めの際地面に張つた横綱と、力士が身につけたシメナワが混同され、それがいつのまにかシメナワを横綱とよんでミツの上にかけるようになつた

横綱はこのように、もともと相撲の階級ではなかつたが、番付面に初めてのつたのは、明治二十三年の西ノ海以来のことで正式に相撲界の最高位として地位化したのは明治四十二年である。

また横づなの免許は享保の頃から相撲司の吉田追風が幕府公認の相撲元締になつて免許を行つてきた。今でも横づなに決定は相撲協会、横づな審議会がするが、免許は熊本の吉田家から授与されている。昨年の若の花の免許も同様である。

井之川部落は
一重一びん祝賀会

朝汐の郷里井之川では朝汐昇進のラヂオで部落民あげて大喜び、実家の米川富忠さん宅へは部落民か田植えも製糖もおつぽり出して祝辞あいさつに応援の暇もない程のにぎわいであつたが、午后三時頃から部落民は一重一びん携帯で老若男女が実家の米川さん宅に集つ祝杯と健斗を祈つて盛大な祝賀会を上げた。感激の米川さんは声をうるませて「皆さんの限りない御支援で相撲の最高峯横づなに昇進しました。今後とも御声援の程をおねがいします」と語つていた

旗行列と祝賀会
亀津商店街わき返る

朝汐横づなの報はラジオで逸早く伝えられ、折から亀津商店街では喜びの報にわき帰り、相互バス初め商店会社でも「祝横づな昇進朝汐関」の大のぼりやはり紙などが張り出され、折から閣会中の町議会でもわがことのように喜び、祝賀行事の打合せするなど祝賀気分をあふつた。

午后三時過ぎから秋武町長、直島助役、大勝議長などを先頭に議員、学校教職員、青年団、児童朝汐後援会など数百名が役場前から市内目抜商店街を通り亀徳港まで旗行列、製糖や田植えに多忙な老若男女も参加してにぎわい、秋武町長発声で万才三唱した。午后五時から北区のいろは塁で数百名が参加して祝賀会を開き朝汐の父米川富忠さんを招いて盛大をきわめた

名瀬市でも祝賀会

名瀬電話ー朝汐の横づな昇進に名瀬市では大喜び市の主催で午后三時から旗行列を行い午后六時から奄美文化会館で盛大な祝賀会を挙行した。

祝電

朝汐関横づな獲得万歳、貴紙を通じ郡民と共に心から祝意を表します

関西奄美会長
前田村清

祝辞

朝汐関横づな昇進万才、貴紙を通じ郡民と共に心から健斗を祈りお祝いもうし上げます

伊仙村仙伊
平山源宝

讀者へお知らせ

郷土徳之島が生んだ国技の花、相撲の最高峯横づなに昇進した「朝汐太郎」の伝記など特集記事が次号より掲載されます。

南西日報社

石けんはオート？・ションによるニツサン石けんをお選び下さい
螢光剤配合
ニッサン石鹸
手を荒さず生地を傷めない
泡立ちがよくてきれいに落ちる
すすぎが楽で溶けくずれせず
最後まで使えて最も経済的
日本油脂

たべすぎに？
三共
タカヂア
タカヂアスターゼ
のみすぎに？
ビタチオをどうぞ
ビタチオニン